

この一年



12月



* D E C E M B E R *



情報ノート

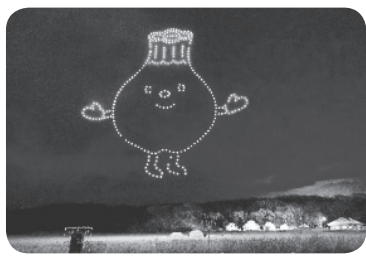
2023(令和5)年も月カレンダーが最後の一枚。今年は新型コロナウイルスが5月に感染法上の位置付けが二類から五類となり、コロナ禍からの脱却が進みました。半面、世界情勢の影響でエネルギーをはじめとした物価高騰により、社会・市民生活での対応を余儀なくされたこの一年。皆さん大変お疲れさまでした。

白老町は3月の町長選でまちのかじ取り役が交代。新人5人を迎えた10月の町議選と、新たな体制によるまちづくりに踏み出しました。また、ウポポイの来場者数100万人達成や念願の町立病院改築が起工式を執り行うなど、これまでの成果が実を結ばせ始めました。この一年の主な出来事を振り返りました。(広報編集室)



1月

新年早々の5日、町新年交礼会が3年ぶりに開催され、出席者らが元氣まちらおいの発展に乾杯。8日の町二十歳を祝う会は、男女85人の新成人が出席。感謝と決意を胸に晴れの門出を祝いました。出席者には北海道日本ハムファイターズの根本悠楓選手(虎杖浜出身)の姿もありました。16日には戸田安彦町長が退任、4月の道議会議員選挙で初当選を果たされました。制御された300機のドローンがウポポイの夜空に浮かび、町民の話題に。



アイヌ民族文化財団提供

2月

旧虎杖中の校舎を最大限生かしリニューアールしたナチュラルサイエンスの自然と科学のミュージジ

3年ぶりの町新年交礼会で、この一年の発展誓う

アム「森の工舎」の粋な計らいで、同中卒業生らが学び舎で再会。親交を深めました。

3月

5日の白老町長選で元役場職員の大塩英男氏が初当選。7日の初登庁のあいさつで「共感ひろがる信頼のまちづくり」を掲げ、町民の負託にこたえる決意を示しました。



平成4年から地域医療の一端を担い続けてきた藤田内科クリニックが惜しまれながら閉院。末には町内3出張所が役割を終え閉鎖。

4月

成年後見や権利擁護に関する総合窓口「町成年後見支援センター」が開設。町内を運行するさまざまな交通手段すべてで

白老町長選で大塩氏が町民の負託を受ける

使える「共通回数券」を販売開始。「お得で便利！」の声。29日、5月4日、地域おこし協力隊が、白老のアイヌ文化伝承者らの手仕事作品を結集し、道都・札幌で開催した「白老八ボの手仕事展」が好評。協力隊は8月には新規委嘱で計8人に。まちづくり法人を立ち上げたり、観光誘導キヤラクターの創設を軸に大規模な企画を実施したり、本屋のない白老で私設文庫を始めたり、子どもたちの地域スポーツ振興に新たなシーンを創出したりと、独自の活躍が目立ちました。



5月

コロナ禍が世界的に緩まった今年は、カナダやニュージーランド、米・ハワイなど海外から、先住民族を中心とし

令和4年度の観光入り込みは14年ぶりの大台超え220万人に

た学生など訪問団がウポポイのある白老町を訪問。町民や教育現場で交流する機会が増え、多文化共生の理解が広まりました。

6月



大塩新町長が所信表明。三つの将来像と九つの目標を掲げ、町政に臨む基本姿勢を示しました。JTBの観光スペシャリストに地域活性化企業人を委嘱。観光分野での活躍が期待されています。ボランティアの町民団体・しらおい防災マスタワー会が札幌管区気象台長表彰を受賞。町民防災意識の向上活動が認められました。白老港に道内最大規模の食用油貯蔵施設が開所。港の役割を広げました。令和4年度の